

ID	感染症 (PT)	出典	概要
1	C型肝炎	ProMED-mail 20160808.4400600	近年、薬物乱用の蔓延により、米国全体と比較して、米国ケンタッキー州における若年女性のC型肝炎罹患数が10倍の速さで増加しており、感染した母親から生まれる乳児の割合が急増している。これらの統計は、ヘロイン及び鎮痛薬の注射が次世代に危険を及ぼすことを明らかにした米CDCによる研究に基づいている。米国Quest Diagnostics社からの検査データ、ケンタッキー州保健当局からの情報、及び2011年~14年の全米の出生証明書データを分析した結果、ケンタッキー州の出産可能年齢の女性におけるC型肝炎の検出は213%上昇し(全米では22%の上昇)、C型肝炎の女性から生まれた新生児の割合は124%上昇した(全米では68%の上昇)。
2	E型肝炎	Vox Sang. 111(2016)242-246	北海道を除く日本各地で献血された血液のE型肝炎ウイルス(HEV)RNAの検出率(50プール)は1/15,075であり、北海道(1/8,173)よりも低く、東日本(1/9,135)が西日本(1/75,930)より高い検出率であった。
3	E型肝炎	第64回日本ウイルス学会学術集会 2016年10月23日~25日 札幌	心・腎移植患者におけるHEV感染の全国実態調査により、HEV-IgG陽性率は4.5%(41/914例)、HEV-RNA陽性率は0.2%(1/443例)であった。また、当該調査により、HEV感染の患者3例が検出され、うち1例は慢性肝炎へ移行していた。
4	インフルエンザ	CDC FLUVIEW 2015-2016 Influenza Season Week 32 ending August 13, 2016	米国におけるインフルエンザA(H3N2)変異型(H3N2v)感染の報告。2016年8月19日、Michigan Departments of Health and Human Services(MDHHS)及びAgriculture and Rural Development(MDARD)は、ミシガン州においてH3N2vのヒトの症例8例が報告されたことを発表した。全確定例は、罹患したブタが特定されたMuskegon、Cass、及びIngham countiesの品評会において、2016年7月~8月にブタに曝露していた。
5	インフルエンザ	CDC/MMWR. 65(2016)1157-1160	米国におけるインフルエンザA(H3N2)の変異型(H3N2v)感染の報告。2016年8月、ヒトにおけるH3N2v感染の検査確定例18例が報告された。当該18例全例が、ミシガン州及びオハイオ州の農産物品評会に参加し、ブタに曝露したことが報告されている。
6	インフルエンザ	http://www.who.int/influenza/human_animal_interface/Influenza_Summary_IRA_HA_interface_12_19_2016.pdf?ua=1	カナダにおけるH3N2v感染の報告。2016年12月16日、WHOは、カナダにおけるヒトのH3N2vの確定例1例の通知を受けた。本症例は発症前に農場で病気のブタに曝露していたことが確認された。
7	インフルエンザ	Outbreak News Today. December 28, 2016	カナダにおけるH3N2v感染の報告。2016年12月16日、WHOは、カナダにおけるヒトのH3N2vの確定例1例の通知を受けた。本症例は発症前に農場で病気のブタに曝露していたことが確認された。
8	インフルエンザ	http://www.who.int/influenza/human_animal_interface/Influenza_Summary_IRA_HA_interface_11_15_2016.pdf?ua=1	オランダにおけるインフルエンザA(H1N1)の変異型(H1N1v)感染の報告。2016年10月26日に発症したH1N1vの小児症例1例が報告された。患者は、発症の数日前に養豚場を訪れており、当該養豚場のブタのサンプルから非常に類似したウイルスが検出された。
9	インフルエンザ	ProMED-mail 20161113.4626414	2016年、インド Himachal Pradesh州において、つつが虫病(37例)、黄疸(34例)、ブタインフルエンザH1N1(5例)によるヒト死亡例が報告された。2016年11月11日までに同州health and family welfare departmentが収集したデータによると、州内で1158例のヒトがつつが虫病に対して陽性、14例がブタインフルエンザに対して陽性と判定されている。
10	インフルエンザ	CDC FLUVIEW 2016-2017 Influenza Season Week 46 ending November 19, 2016	米国におけるH1N2v感染の報告。ヒトのH1N2v感染例1例がアイオワ州から報告された。本症例は、発症の前週にブタへの密接な接触があったことが報告されている。ヒト-ヒト感染は確認されていない。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
11	インフルエンザ	Med Weter. 72(2016)659-665	2011年4月に米国のブタから、次いでウシから分離された新しいインフルエンザウイルスD型(IDV)についての研究報告のまとめ。IDVはウシ(米国、カナダ、中国、フランス、イタリア)、ブタ(米国、イタリア)、並びにヒツジ及びヤギ(米国、カナダ)から分離され、自然宿主はウシと考えられた。ニワトリ及びシチメンチョウからは分離されなかったが、サンプル数が少なく感染しないと結論づけるには不十分であった。感染実験でフェレットとモルモットが感受性であることも示され、公衆衛生上のリスクが示唆された。
12	インフルエンザ	第64回日本ウイルス学会学術集会 (2016.10.23,24,25)	2011年～16年に北海道、岩手県、茨城県、東京都、岐阜県、大阪府、宮崎県、鹿児島県のウシ又は乳牛から血清検体を収集し赤血球凝集抑制試験(HI法)を実施した結果、IDVの陽性率は30.4%であり、日本におけるIDVの広範な分布が示された。
13	インフルエンザ	CDC/MMWR 66 (Early Release)2017.3.3	2013年3月～2017年2月、中国における毎年のトリインフルエンザA(H7N9)の流行により、中国からWHOへ報告されたH7N9のヒト感染は1,258例に至った。5度目の流行(2016年10月1日開始)において、H7N9のヒト感染は460例報告されており、これまでの4度の流行(1度目:135例、2度目:320例、3度目:226例、4度目:119例)におけるヒト感染と比較して大幅な増加を示している。一部の限定的なヒト-ヒト伝播は継続して確認されているが、持続的なヒト-ヒト伝播は確認されていない。
14	鳥インフルエンザ	CDC/MMWR 65(2016)1390-1394	2016年8月31日までに、中国本土において、H7N9のヒトの感染の検査確定例775例が報告された。当該775例のうち、659例(85%)の患者が発症の2週間前に、生きた家禽市場(376例、57%)、裏庭の家禽(115例、17%)、又はその両方(120例、18%)、その他の環境(48例、7%)を含む家禽への曝露を報告した。2015年9月～2016年8月の直近の4度目の流行からの疫学及びウイルス学的データは、家禽や環境からのヒトへの曝露、又は持続的なヒト-ヒト感染において、H7N9の感染力の増加のエビデンスはないことを示している。
15	鳥インフルエンザ	農林水産省ホームページ(2017年2月14日付け)	2016年11月28日、青森県において、家禽では2016年度国内初となる高原病性鳥インフルエンザ疑似患畜が確認され、2016年12月1日に高原病性鳥インフルエンザ(H5N6亜型)であることが確認された。2016年2月12日時点で、7道県10戸の農場で高原病性鳥インフルエンザ(すべてH5N6亜型)が確認されている。
16	日本脳炎B型	ProMED-mail 20160725.4368952	インドにおける日本脳炎の報告。インド Odisha州の24カ所のdistrictsにおけるデング症例の発生後、日本脳炎がPuri district、Brahmagiri block下の3カ所の村において検出されている。ブタ6頭から血清サンプルを採取し、ELISA法による検査を実施したところ、そのうちの3つのサンプルが日本脳炎ウイルスに対し陽性であることが判明した。
17	日本脳炎B型	ProMED-mail 20160929.4525723	インドにおける日本脳炎の報告。2016年9月28日に4歳の女児1例の死亡及び他に脳炎の疑いのある死亡が2例報告され、2016年9月9日以降の小児の死亡総数は19例となった。これらの死亡は、Odisha州、Malkangiri districtのManasa、Goreiguda、Baliapari、Koimetla、Sangel、Anlaguda、Palkonda、Sindhiguda、Siadimal、Chitapari、Golaguda及びKopeguda村から報告されている。死亡した小児の全員が2歳～8歳であり、血液及び脳脊髄液のサンプルにより、死亡3例は、日本脳炎が原因であると確認された。保健当局によると、Malkangiri村における日本脳炎の主な感染源は村で飼育されていたブタであるとのこと。
18	日本脳炎B型	ProMED-mail 20161029.4594738	インドにおける日本脳炎の報告。インド Odisha州のMalkangiri districtにおいて日本脳炎のアウトブレイクによりヒト63例が死亡した後、近隣のKoraput districtのブタにおいて本ウイルスが発見されている。2016年10月26日にKoraput district administrationが受けた報告によると、Uttar Pradesh州、BareillyのIndian Veterinary Research Instituteに送られたブタの血液サンプル28検体のうち、8検体が日本脳炎ウイルスに陽性と判定された。
19	エボラ出血熱	http://apps.who.int/iris/bitstream/10665/208883/1/ebolasitrep_10Jun2016_eng.pdf?ua=1	2016年3月29日、西アフリカのエボラに関連する国際的に懸念される公衆の保健上の緊急事態(PHEIC)が解除された。ギニア、リベリア、シエラレオネにおいて死亡11,310例を伴う確定例、可能性例、疑い例の計28,616例が報告されている。最新クラスターにおいて、2016年3月17日～4月6日、エボラウイルス疾患(EVD)の確定例7例及び可能性例3例が、ギニア南東部において報告された。さらに、リベリアから4月1日～5日に確定例3例が報告された。ギニアは6月1日にエボラウイルスの伝播の終息を宣言した。6月9日、WHOはリベリアにおける直近のEVDのアウトブレイクの終息を宣言した。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
20	コンゴ・クリミア出血熱	HPS Weekly Report Vol.50, No. 2016/37 2016年9月13日号	2016年8月31日、スペインにおいて、クリミア・コンゴ出血熱 (CCHF) ウイルスのヒト感染症2例が報告された。最初の症例は、スペイン Avila provinceにおいてCCHFに曝露した可能性のある62歳の男性1例であり、2例目は、最初の症例が集中治療室に入院した際に看護していた50歳の医療従事者1例である。CCHFの症例はバルカン半島やトルコなどの欧州東部の多くの地域で報告されている一方、これらはスペイン及び欧州南西部における初の土着のCCHFの臨床症例である。
21	黄熱	http://apps.who.int/iris/bitstream/10665/246113/1/yellowfeversitre p-23Jun2016-eng.pdf?ua=1	黄熱の状況報告。アンゴラにおける黄熱症例の総数が2016年の始めから増加している。2016年6月17日時点、疑い例3,294例が報告され、そのうち861例が確定例である。報告された死亡の総数は347例であり、そのうち115例が確定例であった。2016年6月20日時点、コンゴ民主共和国 (DRC) において通知された疑い例は1,106例 (確定例68例、死亡75例) である。さらにケニア、中国においてアンゴラから輸入された黄熱の確定例を報告している。これらの症例は、ワクチン接種を受けていない渡航者を介した国際的な拡散リスクがあることを強く示している。現在6カ国 (ブラジル、チャド、コロンビア、ガーナ、ペルー及びウガンダ) において、アンゴラのアウトブレイクに関連しない黄熱のアウトブレイクまたは散発症例を報告されている。
22	黄熱	http://apps.who.int/iris/bitstream/10665/246242/1/yellowfeversitre p-21Jul16-eng.pdf?ua=1	黄熱の状況報告。2016年7月15日時点、アンゴラでは疑い例3,682例が報告されており、そのうち877例が確定例であった。死亡例は361例であり、そのうち117例が確定例であった。また、7月11日時点の入手可能な情報によると、コンゴ民主共和国において、報告された疑い例は1,798例、確定例は68例、死亡例は85例であった。確定例68例のうち、59例はアンゴラから輸入され、2例は森林型の症例、7例は土着症例であった。さらに、アンゴラから輸入された黄熱の確定例が、ケニアにおいて2例、中国において11例報告された。これらの症例は、ワクチン接種を受けていない渡航者を介した国際的な拡散リスクがあることを強く示しているとの報告。
23	黄熱	http://apps.who.int/iris/bitstream/10665/249535/1/yellowfeversitre p19Aug16-eng.pdf?ua=1	黄熱の状況報告。2016年8月11日時点、アンゴラにおいては、6月23日以降に新たな確定例は存在しない。疑い例3,922例のうち879例が検査確定されており、確定例における死亡は119例である (致死率: 13.5%)。8月18日時点、コンゴ民主共和国において臨床検査を受けた疑い例1,956例から、死亡16例を含む確定例73例が特定された (致死率: 21.9%)。確定例73例のうち、56例がアンゴラで感染し、13例は土着症例、3例は森林型感染の症例、1例は調査中である。
24	黄熱	http://apps.who.int/iris/bitstream/10665/250129/1/yellowfeversitre p16Sep16-eng.pdf?ua=1	黄熱の状況報告。2016年9月15日時点アンゴラにおいては、6月23日以降に新たな確定例は存在しない。2015年12月5日～2016年9月8日に884例が検査確定されており、確定例における死亡は121例である (致死率: 13.7%)。9月14日時点、コンゴ民主共和国において、Sud Ubangi provinceのBudjala Health Zoneから報告された2例目の症例が黄熱と確認された。調査に基づくと、この症例は森林型として分類されており、アウトブレイクには関連していない。Bominenge Health Zoneにおいて報告された1例目の症例については、現在も調査中である。2016年1月1日～9月14日に臨床検査を受けた疑い例2,345例から、死亡16例を含む確定例76例が特定された (致死率: 21%)。8のprovinceから報告された確定例76例のうち、57例がアンゴラで感染し、13例は土着症例、6例は森林型感染の症例 (アウトブレイクとは関連なし) であった。
25	黄熱	http://apps.who.int/iris/bitstream/10665/250593/1/yellowfeversitre p21Oct16-eng.pdf?ua=1	黄熱の状況報告。2016年10月13日時点、アンゴラにおいては、6月23日以降に新たな確定例は存在しない。2015年12月5日～2016年10月13日に、884例が検査確定されており、確定例における死亡は121例である (致死率: 13.7%)。10月19日時点、コンゴ民主共和国において、非森林型の最新の確定例の発症日は2016年7月12日であった。2016年1月1日～10月19日に、2,970例が報告されている。臨床検査を受けた疑い例2,800例から、死亡16例を含む確定例77例が特定された (致死率: 21%)。確定例77例のうち、57例がアンゴラで感染し、13例は土着症例、7例は森林型感染の症例 (アウトブレイクとは関連なし) であった。
26	黄熱	http://apps.who.int/iris/bitstream/10665/250661/1/yellowfeversitre p28Oct16-eng.pdf?ua=1	黄熱の状況報告。2016年10月20日時点、アンゴラにおいては、6月23日以降に新たな確定例は存在しない。2015年12月5日～2016年10月20日に、884例が検査確定されており、確定例における死亡は121例であった (致死率: 13.7%)。10月26日時点、コンゴ民主共和国における、非森林型の最新の確定例の発症日は2016年7月12日であった。2016年1月1日～10月26日に2,987例が報告されている。臨床検査を受けた疑い例2,800例から、死亡16例を含む確定例78例が特定された (致死率: 21%)。確定例78例のうち、57例がアンゴラで感染し、13例は土着症例、8例は森林型感染の症例 (アウトブレイクとは関連なし) であった。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
27	デング熱	http://www.phac-aspc.gc.ca/tmp-pmv/notices-avis/notices-avis-eng.php?id=165	2015年、南北アメリカ及びカリブ海地域において、デング熱の可能性例及び確定例が50万例以上報告された。うち150万例以上はブラジルにおいて発生した。2016年4月時点で報告されたブラジルにおけるデング熱の症例数は2015年の同時期の約2倍であった。アルゼンチン、コスタリカ及びパラグアイにおいても、2015年の同時期と比較して、疑い例及び確定例の大幅な増加が報告されている。ウルグアイにおいては、2016年2月、国内で最初のデング熱症例が報告された。
28	ジカウイルス感染	58th ASH Annual Meeting & Exposition, December 3-6, 2016	有機溶剤/界面活性剤(S/D)処理ならびに液状低温殺菌法(パスツリゼーション)は、ジカウイルス(ZIKV)に対して有効な不活化法であり、ウイルスカ価が検出限界以下まで低減化されたことが確認された。
29	ジカウイルス感染	Emerg Infect Dis. 23(2017)99-101	ZIKVに感染した26歳女性の追跡調査により、発症後81日目の全血検体にてZIKV RNAを検出した。唾液検体は、8日目以降にRNA陰性となったが、尿検体及び腔粘膜スワブについては14日目を過ぎるまで陰性結果は得られなかった。発症後14日目の検体では、培養細胞にてウイルスカ価が評価されたが発症後64日目の赤血球分画を用いた細胞培養ではウイルスの感染性は確認できなかった。
30	ジカウイルス感染	ProMED-mail 20160720.4356276	米国におけるZIKVの報告。2016年7月19日、フロリダ州の保健当局は、ZIKV感染症の新規症例7例を報告した。全例が国外への旅行中にヒトから感染していた。
31	ジカウイルス感染	N Engl J Med. 375(2016)1907-1909	米国におけるZIKVによる劇症型症例及び性感染ではない二次的感染の報告。メキシコ南西海岸から米国に帰国した73歳男性(患者1)がZIKV陽性となり、呼吸不全、腎不全、代謝性アシドーシス、肝炎を伴い死亡した。患者1は、前立腺がんに対する放射線治療を完了し、抗アンドロゲン治療を受けていたが免疫不全状態ではなかった。患者1の涙に接触した合併症のない38歳男性(患者2)がZIKV陽性となった。患者2は、ZIKV流行地域への渡航歴はなく、また同地域に渡航したパートナーとの性的接触はなかった。患者2は患者1から感染した可能性が考えられる。
32	ジカウイルス感染	ProMED-mail 20161001.4529740	米国におけるZIKVによる劇症型症例及び性感染ではない二次的感染の報告。メキシコ南西海岸から米国に帰国した73歳男性(患者1)がZIKV陽性となり、呼吸不全、腎不全、代謝性アシドーシス、肝炎を伴い死亡した。患者1は、前立腺がんに対する放射線治療を完了し、抗アンドロゲン治療を受けていたが免疫不全状態ではなかった。患者1の涙に接触した合併症のない38歳男性(患者2)がZIKV陽性となった。患者2は、ZIKV流行地域への渡航歴はなく、また同地域に渡航したパートナーとの性的接触はなかった。患者2は患者1から感染した可能性が考えられる。
33	ジカウイルス感染	Reuters(2016年7月29日付)	米FDAはフロリダ州におけるZIKV感染の報告を受け、フロリダ州の血液銀行に対して採血の中止を指示した。
34	ジカウイルス感染	The ASTMH 65th Annual Meeting, November 13-17, 2016	プエルトリコにおいて、ZIKV感染患者・既往者13,200例のうち、121例(0.9%)において血小板減少症が認められた。これらの患者のうち重篤であった7例中の2例の患者は入院後24時間以内に死亡した。
35	ジカウイルス感染	http://apps.who.int/iris/bitstream/10665/242439/1/zikasitrep-16Jun2016-eng.pdf?ua=1	2016年6月15日時点のZIKV、小頭症及びギラン・バレー症候群(GBS)の状況報告。60の国・地域がZIKVの蚊媒介性伝播の継続を報告している。性的経路を介した、ZIKVのヒト-ヒト感染のエビデンスが10か国から報告されている。2016年6月15日の週において、新たに蚊媒介性ZIKVの伝播またはヒト-ヒト感染を報告した国はなかった。2016年6月15日時点、ZIKV感染に関連している可能性がある、または先天性感染が示唆される小頭症及び他の中枢神経系奇形が、12の国・地域で報告されている。
36	ジカウイルス感染	http://apps.who.int/iris/bitstream/10665/246222/1/zikasitrep14Jul16-eng.pdf?ua=1	2016年7月13日時点のZIKV、小頭症及びGBSの状況報告。62の国・地域が2015年以降のZIKVの蚊媒介性伝播のエビデンスを報告している。4か国が、流行性伝播の可能性があり、または2016年にZIKVの蚊媒介性の地元感染のエビデンスを報告したとして分類されている。性的経路を介した、ZIKVのヒト-ヒト感染のエビデンスが11か国から報告されている。2016年7月13日時点、ZIKV感染に関連している可能性がある、または先天性感染が示唆される小頭症及び他の中枢神経系奇形が、13の国・地域で報告されている。ZIKVの循環を背景とする世界の15の国・地域において、GBSの発生率の増加、GBS症例におけるZIKV感染症の検査確定が報告されている。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
37	ジカウイルス感染	http://apps.who.int/iris/bitstream/10665/249573/2/zikasitrep25Aug16-eng.pdf?ua=1	2016年8月24日時点のZIKV、小頭症及びGBSの状況報告。コスタリカ、ドミニカ共和国、ハイチにおいてZIKV感染に関連する可能性のある小頭症及びその他の中枢神経系奇形が報告された。70の国・地域が2007年以降(67の国と地域が2015年以降)のZIKVの蚊媒介性伝播のエビデンスを報告している。4つの国・地域では、2016年に地元の蚊媒介性ZIKV感染の流行伝播やエビデンスの可能性がある。2016年2月以降、11カ国・地域がZIKVのヒト-ヒト感染のエビデンスを報告している。
38	ジカウイルス感染	http://apps.who.int/iris/bitstream/10665/250143/1/zikasitrep22Sep16-eng.pdf?ua=1	2016年9月21日時点のZIKV、小頭症及びGBSの状況報告。セントクリストファー・ネイビスにおいて蚊媒介性のZIKV感染が報告された。西太平洋地域のシンガポール、フィリピン、マレーシア及びベトナムにおいて新規症例の報告が継続している。グアテマラにおいてZIKV感染に関連する可能性のある小頭症及びその他の中枢神経系奇形が報告された。エクアドルにおいてZIKV感染に関連するGBSの症例が報告された。73の国・地域が2007年以降(71の国・地域が2015年以降)のジカウイルスの蚊媒介性伝播のエビデンスを報告している。5つの国・地域は、2016年における地元の蚊媒介性ZIKV感染の流行伝播やエビデンスの可能性を有している。2016年2月以降、12の国・地域がZIKVのヒト-ヒト感染のエビデンスを報告している。
39	ジカウイルス感染	http://apps.who.int/iris/bitstream/10665/250633/1/zikasitrep27Oct16-eng.pdf?ua=1	2016年10月26日時点のZIKV、小頭症及びGBSの状況報告。ベトナムのMinistry of Healthから小頭症症例1例が報告され、原因究明のための検査が行われている。73の国・地域が2007年以降のZIKVの蚊媒介性伝播のエビデンスを報告している。7つの国・地域は、2016年における地元の蚊媒介性ZIKV感染の流行伝播やエビデンスの可能性を有している。12の国・地域がZIKVのヒト-ヒト感染のエビデンスを報告している。
40	ジカウイルス感染	http://apps.who.int/iris/bitstream/10665/251648/1/zikasitrep24Nov16-eng.pdf?ua=1	2016年11月23日時点のジカウイルス(ZIKV)、小頭症及びギラン・バレー症候群の状況報告。2016年11月18日に、ZIKV、小頭症及び他の神経学的障害に関するEmergency Committeeの第5回会議が開催され、国際的に懸念される公衆の保健上の緊急事態(PHEIC)の終息を宣言した。75の国と地域が2007年以降(69の国と地域が2015年以降)のZIKVの蚊媒介性伝播のエビデンスを報告している。7の国と地域は、2016年における地元の蚊媒介性ZIKV感染の流行伝播やエビデンスの可能性を有している。12カ国がZIKVのヒト-ヒト感染のエビデンスを報告している。
41	ジカウイルス感染	https://www.cdc.gov/media/releases/2016/s1122-microcephaly-onset-after-birth.html	ブラジルの先天性ジカウイルス(ZIKV)感染を伴う乳児13例について、出生時には小頭症を伴っていなかったが、後に頭部の成長遅延を発症した。これらの乳児のうち11例が出生後に小頭症を発症した。乳児は出生時には小頭症を発症していなかったにも関わらず、乳児は先天性ジカ症候群に一致するその他の脳異常を有していた。妊娠中に母親がZIKVに曝露した乳児において、出生時に小頭症ではないことによって先天性ZIKV感染またはジカ関連の脳異常の存在が除外されるわけではないとの報告。
42	ジカウイルス感染	https://www.cdc.gov/media/releases/2016/p1213-zika-virus-replicates.html	ジカウイルスRNAが、母親のジカウイルスに感染してから7か月以上経過した胎盤及び胎児の脳に持続すること、生後2か月で死亡した小頭症の乳児においてウイルスが複製していることのエビデンスが報告された。乳児の脳におけるRNAレベルは、女性の胎盤よりも約1000倍高かった。
43	中東呼吸器症候群	Emerg Infect Dis. 23(2) 2017.2.15	中東呼吸器症候群コロナウイルス(MERS-CoV)の感染について、ヒトコブラクダとアルパカ以外の動物が宿主となる可能性について調査した。ブタ、ラマ、ウマ、ヒツジに対し、MERS-CoVを接種し、感染について調査した結果、ブタとラマが宿主となることが示された。
44	セントルイス脳炎	IDWeek 2016. October 26-20,2016	米国における輸血によるセントルイス脳炎ウイルス(SLEV)感染疑い例の報告。SLEVに無症候性感染している供血者からの赤血球製剤の輸血を受けた腎移植患者において、SLEV感染が認められた。輸血によるSLEV感染が疑われる初の症例。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
45	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	HPS Weekly Report. 2016;50(2016/49):417	European Food Safety Authority(EFSA)は、ウシ、ヒツジ及びヤギにおける伝達性海綿状脳症(TSE)のモニタリングに関する初のEU概略報告書を発表した。EFSAの報告によると、2015年に140万頭のウシが検査され、4つのEU加盟国において症例5例(アイルランド1例、スロベニア1例、スペイン1例、英国2例)、ノルウェーにおいて症例1例が検出された。アイルランドと英国における2例は古典的BSEに感染しており、2例とも2001年に施行されたEU全域での飼料規制の後に生まれていた。その他4例は非定型BSE症例であった(3例はH-BSE、1例はL-BSE)。
46	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	EFSA Journal. 2016; 14(12):4643	European Food Safety Authority(EFSA)は、ウシ、ヒツジ及びヤギにおける伝達性海綿状脳症(TSE)のモニタリングに関する初のEU概略報告書を発表した。EFSAの報告によると、2015年に140万頭のウシが検査され、4つのEU加盟国において症例5例(アイルランド1例、スロベニア1例、スペイン1例、英国2例)、ノルウェーにおいて症例1例が検出された。アイルランドと英国における2例は古典的BSEに感染しており、2例とも2001年に施行されたEU全域での飼料禁止令の後に生まれていた。その他4例は非定型BSE症例であった(3例はH-BSE、1例はL-BSE)。
47	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail 20161210.4689890	EFSAは、ウシ、ヒツジ及びヤギにおけるTSEのモニタリングに関する初のEU概略報告書を発表した。EFSAの報告によると、2015年に140万頭のウシが検査され、4つのEU加盟国において症例5例(アイルランド1例、スロベニア1例、スペイン1例、英国2例)、ノルウェーにおいて症例1例が検出された。アイルランドと英国における2例は古典的BSEに感染しており、2例とも2001年に施行されたEU全域での飼料禁止令の後に生まれていた。その他4例は非定型BSE症例であった(3例はH-BSE、1例はL-BSE)。
48	レンサ球菌感染	IDCases. 6(2016)36-38	日本において、Streptococcus suis(ブタ連鎖球菌)血清型5による単純性菌血症が発現したとの報告。患者は仕事で生の豚肉を素手で扱っており、症状発現の2日前には串焼き用の串で指を刺していた。
49	レンサ球菌感染	日本急性血液浄化学会雑誌. 2016; 7(Suppl.) :82	日本国内において、40歳男性が、豚肉を摂取後にStreptococcus suisによる急性感染性電撃性紫斑病に罹患し、救急搬送され、両側下肢膝上切断術が行われた。
50	大腸菌感染	ProMED-mail 20160808.4400601	コリスチン耐性遺伝子MCR-1の動物及びヒトにおける拡散に関する新たな研究論文2編がEmerging Infectious Diseasesに掲載された。1編目の研究論文では、2004年～10年に欧州のウシの糞便サンプルから培養された大腸菌株150件のうち、45件が多剤耐性として分類され、うち3件はコリスチン耐性を示した。さらなる分析により、1件の分離株がMCR-1陽性であることが確認された。さらに、分離株は他の全ての抗生物質に対して耐性があることが判明した。2編目の研究論文では、カナダの研究者チームから、薬剤耐性大腸菌の症例1例が報告された。この大腸菌の分離株がコリスチン耐性であることが判明し、ゲノム解読でMCR-1遺伝子(及びESBL[extended spectrum beta-lactamases]遺伝子blaCTX-M-27)の存在が確認された。
51	サルモネラ症	日本獣医師会雑誌. 69(2016)597-603	2011年9月、埼玉県内の酪農場において成牛の下痢症が集団発生した。糞便12検体すべてからSallmonella Nagoyaが分離され、本事例はウシにおけるSallmonella Nagoyaの病原性が示された初めての報告と考えられた。本事例の分離株と過去に県内で分離されたヒト、ウシ及びアライグマ由来株は異なっており、系統樹における近似度は62.8～71.7%と低かった。
52	梅毒	感染症発生動向調査における異性間性的接触による梅毒報告の増加 2016年第21週	日本における梅毒の報告。2016年1月4日から2016年5月29日において、総報告数は1,514例で、前年同時期の1.8倍であった。男性は昨年同時期の1.7倍、女性は2.0倍となり、女性の増加が目立った。女性は20から24歳が34%と全体に占める割合が最も高く、昨年同時期と比べても2.1倍と増加が著しかった。男女の異性間性的接触による感染の報告が増加し続けている。男性間性的接触による感染の報告が増えとどまっていたが、2016年が再び増加傾向を示した。
53	オウム病	Transbound Emerg Dis. 64(2017)167-170	ニワトリの産卵時に生じる卵殻外部の温度変化によって卵内に陰圧が生じ、その結果卵殻表面に存在するChlamydia psittaci(オウム病クラミジア)が卵殻を貫通し卵内に侵入、さらに鶏卵アルブミン内で生存し発育中の胚に感染することが、初めて実験的に証明された。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
54	アメリカ・トリパノソーマ症	PLoS Negl Trop Dis. 10(2216)e0005074	テキサス州南部における土着シャーガス病の疫学研究として行ったクルーズトリパノソーマ (<i>T.cruzi</i>) 抗体検査の陽性率は、コヨーテが8%、野良犬が3.8%、住民が0.36%であった。また、家屋周辺から採取したベクター(サシガメ種)の <i>T.cruzi</i> DNA陽性率は56.5%であった。
55	アメリカ・トリパノソーマ症	http://www.fda.gov/downloads/BiologicsBloodVaccines/GuidanceComplianceRegulatoryInformation/Guidances/Blood/UCM528600.pdf/2016/11/09	FDAは輸血用全血及び血液成分における <i>T.cruzi</i> 感染リスク低減化を目的とした血清学的検査の使用に関する業界向けガイダンス案を改訂した。改訂内容は以下のとおり。 <ul style="list-style-type: none"> ・医療機器の成分や製造に使用するための供血を含めたガイダンスとして範囲を広げる。 ・ドナーにシャーガス病の病歴について尋ねる問診を削除する。 ・供血を延期していたドナーのリエントリーのアルゴリズムを提供する。
56	バベシア症	N Engl J Med. 375(2016)2236-2245	米国のバベシア症流行地(コネチカット州、マサチューセッツ州、ミネソタ州、ウィスコンシン州)における供血血液中の <i>Babesia microti</i> に対する調査。2012年6月から2014年9月に採血された供血検体について、 <i>Babesia microti</i> 抗体を検出する免疫蛍光アレイ法と <i>Babesia microti</i> のDNAを検出するリアルタイムPCRを組み合わせて <i>Babesia microti</i> 抗体及びDNA陽性率を検査した結果、陽性血液が0.38%(335検体/89,153検体)検出された。
57	マラリア	ProMED-mail 20160612.4279221	コンゴ民主共和国(DRC)北東部の Haut-Uele Provinceにおいて、過去4週間に国境なき医師団(MSF)により治療されたマラリアの外来患者45,000例のうち80%は13歳未満の小児であった。2016年の最初の16週までに同provinceの4カ所の保健区域においてマラリア症例93,000例を記録した後(2015年の総計の約4倍)、政府はMSFの介入を要請した。マラリアはDRCにおける主要な死因である。WHOのデータによると、2013年は2,100万例であり、ナイジェリアに続き世界で2番目に多いマラリア発生数であった。